



学校は「そろえる」ところ？

「さあ、勉強を始めるよ。背筋を伸ばして手は膝の上。教科書は机の左、ノートは右に置いて……。」

かつては、このような指導が教室では当たり前に行われていました。しかし、現在は子どもたち一人一人の特性や状況を踏まえ、同じ形を求めることは少なくなっています。

椅子に座ってじっとしていることが難しい子や、強いこだわりがあり、指示どおりの行動ができない子もいます。そのような子どもに対して、一律に「みんなと同じようにしなさい」と求めても、学びにつながらないことがあります。できない子がダメだと言っているわけではありません。

もちろん、安全に関わる場面は別です。校外学習や災害時の避難などでは、速やかに並んだり移動したりすることが命を守る行動につながります。そのため、安全に関わるルールは大切に指導しています。一方で、安全面に支障がない場面では、みんなと同じ方法でできなくても、その子なりの方法で学んだり活動したりできていれば認めるようにしています。

どこまで配慮し、どこでルールを大切にするのか、その見極めは決して簡単ではありません。周囲からは「甘えているだけでは」と見えることもあるかもしれません。しかし、以前であれば厳しく指導していた場面でも、今は「できないこと」を繰り返し求めるのではなく、「できるようになるためには、どのような支援や環境が必要か」を考えることを大切にしています。そのために、目標を小さく設定し、一歩ずつ積み重ねる「スモールステップ」で取り組むこともあります。

そして、その子に合った支援を考えるには、一人一人を深く理解することが欠かせません。子ども本人との対話から見てくることもあれば、自分ではうまく説明できないこともあります。そんなときは、「この子はどのように感じているのだろう」「何が難しさにつながっているのだろう」と教職員同士で考えを出し合い、支援の方法を検討します。思うような成果につながらず、試行錯誤を繰り返すことも少なくありません。それでも、子どもたちが安心して学び、自分らしく成長していけるように、教職員が力を合わせる「チーム学校」として、これからも子どもたち一人一人に寄り添った教育を進めていきたいと考えています。

「働き方改革」って何？ パート2

先月号からの続きです。先生たちは授業以外の学びの場を通して成長し、子どもたちに向かっていけるとお話ししました。

しかし、今の学校は余裕がなくなっています。教職員間で顔は合わせているけれども全く話をしていない日も多々あります。様々な取組が降ろされてきて「あれもこれも」しなければならぬ。一人一人の子どもに応じた対応もしてあげたい。当然授業の準備もあります。時間も人もなくて疲弊していくばかりです。疲弊した先生たちの顔を見て子どもたちのテンションは上がるはずがありません。今の学校はこんなところまで来ています。だから「働き方」の見直しが求められているのです。これも上から降ろされてきた指示ではあります……。

この状態に各学校で様々な取組に挑戦しています。本校でも余裕を生み出し、先生たちが笑顔で子どもたちに向かっていけるように工夫しています。早く退勤することも勧めていますが、余計に仕事が残ってしまって自宅で仕事をすることでは意味がありません。まずは「あれもこれも」の業務を精選すること、一人でやっていた業務をチームで協働すること、教職員間で様々なことについて対話することから検討しています。でも、なかなか難しいことです。簡単には業務精選もできません。子どもたちがワクワク活動できるよう私たちも変わっていこうと思います。それが本校の「働き方改革」です。今後、保護者・地域・外部専門家の方々にご協力いただきたいことをお願いすることがあると思います。その時にはどうぞよろしくお願いいたします。

